



『千賀戸神社本殿彫刻』

村重要文化財に

5月29日、「千賀戸神社本殿彫刻」が昭和村重要文化財に指定されました。今回の登録で昭和村の指定重要文化財は21件目になり、平成15年以来20年ぶりの登録となります。

千賀戸神社は椽久保地区に所在する村社です。村誌久呂保によれば、創立年は不明となっています。神社の裏山は愛宕山と呼ばれ、峰の上にはかつては石宮が祀られていました。椽久保村分村の際に、大森神社と同神の日本武尊と、千賀戸姫命を相殿して村の鎮守としたとあります。現社殿は明和5年（1768）に大改修が行われ造営されました。造営にあたっては、山の斜面を住民の手で開削し整地されたとい伝が残っています。

本殿の造営は、棟札には明和4年（1767）の記載があり、この時期に造営されたとみられています。棟梁は妙義神社総門など県内に数多くの寺社建築を残した岸豊後守が務めたとされます。



本殿正面

本殿彫刻について

本殿彫刻は、自性院観音堂境内にあった大銀杏の木を板にし、透彫りされた物です。彫刻を行ったのは日光の建造物の修復や建築、各地の神社仏閣の彫刻を業としていたとされる星野政八郎と福田助次郎であると、上棟の時の文書にその名前が残っています。二人は三年もの月日をかけて本殿の彫りを仕上げたとされています。

本殿に施された彫刻は、土台上部から妻の先まで埋め尽くされています。中でも三側面の彫刻は特別立派

に仕上げられており、中国北宋時代の学者・司馬温公の逸話を元に命の大切さを伝える「瓶割の図」、親を大切にすいわれの「ひさご仙人の図」、風雅な生活を送ることを表した「梅妻鶴子の図」が彫刻されています。

両名が本殿に仕上げた彫刻は、白木彫りの姿のままに塗装されていませんが、その姿が美しいとされています。彫刻の透彫り、斗拱の連続性、唐草模様のレリーフ化が見られ、江戸時代後期に行われたその業の偉大さを現在まで伝えていきます。

「瓶割の図」

高価な水瓶に落ちた子どもを救うために、大切な瓶を割って助け出す様子。生命はどのような高価なものより大切であることを表したもの



「梅妻鶴子の図」

妻子を持たず、梅を妻のように愛し、鶴を子のようにかわいがる様子。俗世を離れ、気ままに風流に暮らすたとえを表したもの



「ひさご仙人の図」

養老の滝の図ともよばれ、子が山で酒の泉を発見し、父を喜ばせた様子。親を大切にすいわれを表したもの



千賀戸神社

千賀戸神社はかつて、母乳の出ない母が御神米を頂きお粥にして食べるとお乳が出るようになる信仰され、たくさんの参拝者があったと伝えられています。

現在でも春と秋には毎年、例大祭が行われ大切に祀られています。椽久保地区の住民によって大切に守られ、紡いできた歴史的建造物が、このたび村重要文化財として登録となりました。

▶問合せ 教育委員会事務局 ☎24-5120